【記者発表】

国土交通省 東北地方整備局 仙台河川国道事務所 だいすき みやぎの かわとみち

平成２８年２月１日
石巻専修大学
あ・ら・伊達な道の駅
大崎市
国土交通省 東北地方整備局
仙台河川国道事務所

「あ・ら・伊達な道の駅」と石巻専修大学の連携

～学生達の活動の最終成果発表会を実施します～

大学と「道の駅」の交流・連携の一環として、石巻専修大学と道の駅「あ・ら・伊達な道の駅」及び大崎市、仙台河川国道事務所の４者で連携企画型の実習をしているところです。

この度、学生が本企画活動成果についての「最終成果発表」を行うこととなりましたのでお知らせいたします。

これまでの実習で学生達が抽出した「道の駅」の課題（地域情報発信拠点の強化、若者を呼び込む新たな魅力の創出、外国人観光客への対応）に対し、学生ならではの視点で最終提案書をまとめプレゼンテーションを行います。

※ これまでの実習内容については別添 資料１ のとおり。

●実習発表日
平成２８年２月５日(金) １５：３０～

●実習場所
宮城県大崎市岩出山池月字下宮道下４番地１
大崎市池月地区公民館（「あ・ら・伊達な道の駅」隣接）※ 別添位置図参照

●実習主体
石巻専修大学　学生９名

●主な実習内容
「道の駅」の課題に対する改善策等の最終成果発表

発表記者クラブ
宮城県政記者会・仙台市政記者会・東北電力記者会
東北専門記者会・古川記者クラブ・石巻記者クラブ

問い合わせ先

■連携企画の実施内容について
石巻専修大学　人間学部　人間文化学科　准教授　庄子（しょうじ） 真岐（まき）
住所：宮城県石巻市南境新水戸１番地　電話：0225-22-7716 内線3004

■今回の取り組みについて
「あ・ら・伊達な道の駅」　代表取締役　遠藤（えんどう） 悟（さとる）
住所：宮城県大崎市岩出山池月字下宮道下４番地１　電話：0229-73-2236

■今回の取り組みについて
大崎市　産業経済部　産業政策課長　西條（さいじょう） 勲（いさお）　電話：0229-23-2281

■大学と「道の駅」の交流・連携全般について
国土交通省　東北地方整備局
仙台河川国道事務所　交通対策課長　松本（まつもと） 章（あきら）　電話：022-248-4131(代表)　内線471

「道の駅」と大学の連携 （連携企画型）

石巻専修大学と道の駅「あ・ら・伊達な道の駅」の連携
～　これまでの取組み　～

「あ・ら・伊達な道の駅」と石巻専修大学の連携（平成27年11月30日記者発表）
＜リンク：http://www.thr.mlit.go.jp/bumon/kisya/kisyah/images/59108_1.pdf＞

【実施内容】

石巻専修大学の学生が、「あ・ら・伊達な道の駅」において現地調査等を実施し、課題を抽出・整理するとともに、「あ・ら・伊達な道の駅」のポジション（ゲートウェイ型：地域の観光総合窓口機能、インバウンド観光の促進等）を踏まえ、

① **地域情報の発信拠点機能の強化**
② **若者を呼び込む新たな魅力の創出**
③ **外国人観光客への対応**

を重点課題として取組み、改善策の提案や企画の立案等を行う。

【実施期間】

・平成27年7月24日～平成28年2月5日

【実施スケジュール】

平成27年
- 7月10日：**現地ガイダンス**（場所：大崎市池月地区公民館）
- 7月24日：**「道の駅」現地調査・意見交換会**（場所：「あ・ら・伊達な道の駅」）
- 10月23日：**岩出山町歴史勉強会**（場所：大崎市池月地区公民館）
- 12月　4日：**改善策・企画案の中間発表会**（場所：大崎市池月地区公民館）

平成28年
- 2月　5日：**改善策・企画案最終発表会**（場所：大崎市池月地区公民館）

【12月4日の中間発表会における学生からの提案】

① 地域情報発信拠点の強化について

■QRコードを活用した情報発信方法の提案

○ WEB上で発信されている情報を活用できないか検討した結果として、「QRコードを活用した情報集約を試行し、道の駅において活用する」改善策を提案。

■WEBを活用した情報発信方法の提案

○ 地域情報発信拠点として求められるもの

⇒ 情報の内容：イベント・周辺観光・地域交通・道路・気象・災害・医療・宿泊施設等

○ 有効だと考えられる情報手段

⇒ HP上で観光情報を提供、地域巡りコースやツアーを掲載
県・市の観光情報のリンク、コースマップのPDFを貼り付ける
Facebook（SNS）での情報発信 → スタッフブログを転用

② 若者を呼び込む新たな魅力の創出について

○ 学内において学生に対しアンケートを実施し、大学生の「道の駅」利用実態とそのニーズを把握。

＜アンケート項目：利用実績・利用目的・興味のあるイベント等＞

○ アンケート結果等を踏まえ、「道の駅」におけるバーベキューの提案。

⇒ バーベキュースペースの設置、「手ぶら・持ち込み可」
「道の駅」で新鮮野菜の購入等。

③ 外国人観光客への対応について

○ 外国語表記が無い、外国語を話せるスタッフが誰か分からない、案内板が見にくい等の課題。

【学生の提案】

○ 「指差し会話集」の活用。

観光スポットごと、言語ごとに情報を集約する。
「指差し会話集」を集め、「道の駅」で活用しやすいように編集する。

【現地調査・歴史勉強会・意見交換会等の実施状況】



＜7/10　現地ガイダンス＞



＜7/10　駅長による施設案内＞



＜7/24　学生の意見発表＞



＜7/24　意見交換会＞



＜10/23　歴史勉強会＞



＜10/23　周辺観光スポットの視察＞

【12/4　中間発表会の実施状況】



＜中間発表会の様子＞



＜学生の発表状況＞

実習会場
「あ･ら･伊達な道の駅」、「大崎市池月地区公民館」位置図

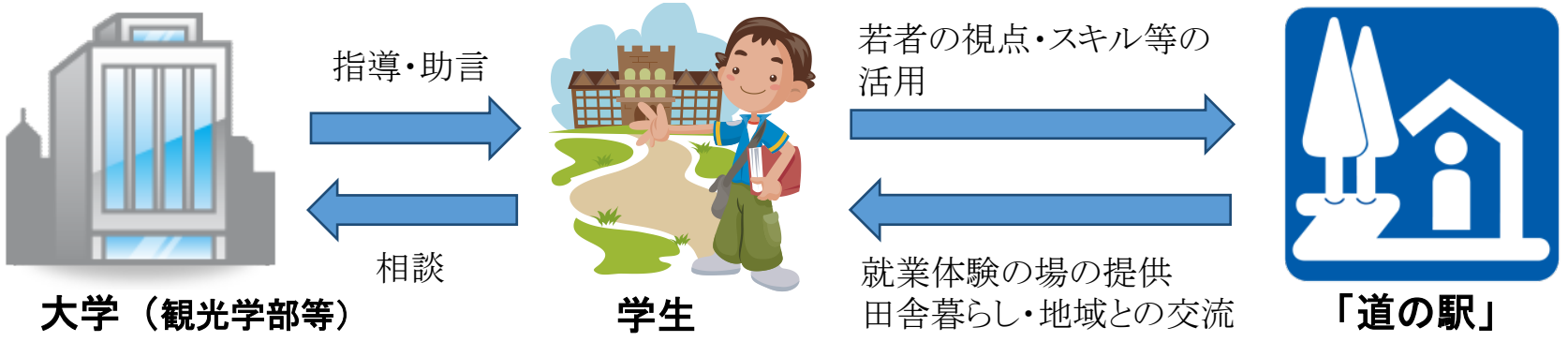




「道の駅」と大学の連携について

○ 「道の駅」における大学との連携、受入体制を整備し、若者の就労体験や交流の場として活用。
○ 地域の魅力の集まる「道の駅」と、観光学等を学ぶ地域外の若者が交流することで、新たな価値の創造を図る。
○ 道の駅と大学のニーズに応じ、「連携企画型」と「就労体験型」の2種類の形で実施

実施イメージ



※全国「道の駅」連絡会で双方のニーズをマッチング

これまでの実施例

＜連携企画型＞

京都府亀岡市、南丹市、京丹波町の道の駅
・京都精華大学の大学生が、道の駅で販売するスイーツパッケージをデザイン


包装デザイン打合せ

「かなん」（大阪府河南町）
・道の駅と大阪府立大学の大学生のコラボによりオリジナル弁当を開発


道の駅弁当「かなん冬の恵み」

＜就労体験型＞

「霧の森」（愛媛県四国中央市）

・地元イベントの企画立案、実施補助のほか、道の駅内で製造されている地元名産品の製造・販売の補助を実施。
・H25年度は10名受け入れ、うち7名は関西圏の大学から参加

・H15からこれまで約110名が実施
・そのうち2名が「道の駅」へ就職


大学生が企画したイベント


地元名産品「霧の森大福」

項　目	連携企画型	就労体験型
概　要	「道の駅」側と大学側でお互いのニーズを確認し、付加価値を創出する企画・立案等を行うもの	「道の駅」の運営業務において、若者の視点、感性やITスキル等を通して新たな行動や発見を期待するもの
内容例	地域巡りツアー企画、商品開発、売場改善　等	イベントの企画・運営、新しい観光資源の発掘 農作業の体験、地元産品を使った商品開発 物産販売の補助、HP等による情報発信の提案・実施　等
期　間	通年の授業の中での通いを想定	概ね2週間以上の長期宿泊型を想定 （夏期休暇期間活用）
受入学生	道の駅近傍の大学を想定	全国の大学を想定
受入人数	ゼミ単位（少人数～10名程度のグループを想定）	数名

＜連携企画型の事例＞※道の駅ではない事例も含む

○ 観光
- ・地域巡りガイド（跡見学園女子大学）
- ・日帰り観光プラン作成（和歌山大学）

○ 商品開発
- ・地元伝統野菜を活用した道の駅弁当（大阪府立大学）
- ・地場産品を活用したお土産品開発（弘前大学）



地域巡りガイドの様子

○ まちづくり・地域活性化
- ・キャンプ場を起点とした地域活性化（和歌山大学）
- ・ご当地キャラクターの発案・活用（大妻女子大学）

出典）各大学ホームページ参照

＜就労体験型の実施スケジュール（イメージ）＞

大学と全国「道の駅」連絡会で基本協定の締結

～3月　「道の駅」の受入概要調整

～5月　学生の派遣希望

全国「道の駅」連絡会によるマッチング

7,8月　就労体験実施